【成果報告】

本助成による成果としては、①現地調査及び国内・海外の専門家との研究交流、②論文作成、を通じて研究を進展させた。

現地調査及び国内・海外の専門家との研究交流では、2023 年 8 月末から 9 月初旬にメキシコに出張し有意義な現地調査・ヒアリング・研究交流ができた。タイもメキシコも世界における工程間分業「グローバル・バリュー・チェーン」に盛んに取り込まれ、自動車産業や機械産業を中心に海外直接投資を引きつけて経済成長を遂げた経緯を持つ。数多くの日系企業も両国に進出しており、タイはアジアの、メキシコは北米の製造業生産・輸出拠点となっている。開発途上国や新興国が労働集約的な工程を中心にグローバル・バリュー・チェーンに参加した先に進み「中所得国の罠」から脱するためには、高度化（広い意味での能力向上）が必須である。近年、「社会的高度化」と呼ばれる、雇用の質を向上させ、社会的アクターとしての労働者の権利を改善するプロセスが注目されるようになってきたが（Rossi (2019)）、「社会的高度化」は国内格差是正と関わる重要な概念である。「社会的高度化」と従来の「経済的高度化」は相互に関係しており、高度化についての研究は、両国の国内格差是正を考える上で重要であると考えた。こうした背景から、メキシコへの出張では、大学、研究所、政府機関のみならず、日系企業・工場も訪問した。特に、自動車産業を中心に日系企業が進出している中部高原地域（バヒオ）のグアナファト州とケレタロ州を初めて訪問できたことは収穫であった。日進月歩な製造業界の厳しい現実や、麻薬問題により急速に治安が悪化した中でも生産せざるを得ない企業の苦悩を知り、国の政情や治安がいかに企業の現地進出に影響を及ぼすか、それがいかに地域格差に影響するかがわかった。

こうした現地調査と同時並行的に、「メキシコのグローバル・バリュー・チェーン参加：高度化への予備的考察」と題する論文を作成し、査読付きの学術雑誌ラテン・アメリカ論集第 57 号に掲載された。本論文では、国際貿易データ、付加価値貿易データ、世界銀行の GVC 統計データを用いて、メキシコの産業の高度化とグローバル・バリュー・チェーンへの参加の特徴を詳細に示した上で、メキシコのグローバル・バリュー・チェーンの高度化についての既存研究をサーベイした。メキシコは比較的安価な労働力と米国に近いという立地上の優位性を生かした段階で留まる「要素投入型成長路線路線の限界」に直面しており、高度化が一部の特定の地域や企業で生じたとする事例もあるもののメキシコ全般の状況ではなく、格差があることを示した。

写真：グアナファト州の日系企業・工場を訪問